

大樹の礎

Taiju no Ishizue

より大きな大学を目指して！

日本医療科学大学 学長 佐藤 泰正



御父母の皆様、学生諸君、新年明けましておめでとーございませう。年の初めにあたり、皆様方の御健康、御多幸を心からお祈り申し上げます。

今年の干支はうさぎ。本学も大きく飛躍、発展したいと教職員一同、心を一つにしているところでございます。

早いもので開学から四年がたち、この三月には第一回目の卒業式を行い、一期生を世に送り出すこととなります。四年生は現在、卒業試験や国家試験突破を目指して頑張っています。先生方も全力を尽くして、国家試験の指導にあたっておりますので、素晴らしい結果が出るものと確信を致しております。

昨年は新たに図書館や大教室が新築され、学生の皆さんの学習環境が飛躍的に拡大・改善されました。四年生を中心に、大学での学習活動がより深化したことを喜んでおります。



さて、本学も医療科学系の大学としての更なる発展のため、平成二十四年四月開設を目指して新学科設置の準備を始めております。

詳細が決定次第、皆様方にご報告する予定としておりますので、皆様方の御支援、御指導を心からお願ひ申し上げます。

夏の猛暑の記憶も新しいというのに、今年の寒さも例年にならない厳しいものとなっております。くれぐれもご自愛の程をお祈り申し上げて、新年の御挨拶と致します。

連続エッセー⑦

もうすぐ春

リハビリテーション学科作業療法学専攻 浅海 捷司

キャンパス南のガタガタ橋の脇から城西大学に沿う小道を登る。やがて住宅団地が開けてくる。団地を抜けたあたり、防風林のように樹木が並び、それに添ってなおち行く。一か所だけ木立の切れたとこがある。その切れ間の向うにタイムスリップしたような光景があった。春先の一日、そんなふう歩いた日がある。

木立に添って小川が流れ、畦道がその先の緩やかな丘へ向かってのびている。眼前は水田。もう少しすると田には小川から水がひかれ、畦には葎も茂り雑草の音があたりを圧するのであろう。実習ゆかりの「新しき村」であった。今は10世帯余の人々が「自他共に生きる理想の世界」を求めて暮らしている。

丘には、村民の住まい、鶏舎群とともに実習ゆかりの美術館や村民の共同食堂、生活文化館、茶室などが点在している。

「人間とは二つの営みとは二層らしと社会二など思いを馳せることの多い、作業療法の仕事の中にあつた者としては、「ここでは障害者や老人を支援にどう包み込んでいるのだろう」そんなことのお話を村民の方々からうかがえたらと念じつつ村内を歩いた。

わが新しい学び舎はこの春、最初の卒業生を世に送る。人生の節々で、母校を訪ねることもあろう。そんな時ちよっと足を伸ばして、新しき村を歩いてみることをすめたい。歩いて30分程である。

■実習の言葉から

君は君、我は我也、されど仲よき

村にも特色がなくとも正直に働く人は、それは新しい世界の基礎になる

我が行く道に花多しこの道より我を生かす道なしこの道を歩く

(あさうみ しょうじ 本学教授)

「大樹祭」開催!

大樹祭が、好天に恵まれた11月3日に開催されました。

とから、竣工したばかりの図書館棟校舎やグラウンドの特設ステージを

と。

昌邦氏と本学客員教授青島健太先生とのトークショー、特設ステージで

別年同様、各学科・学年・クラスからの出展や中庭ステージでの催し、父母

グッズの販売などが行われました。



「大樹祭」に参加して

第五回大樹祭 スタッフ
診療放射線学科一年 根本 祐子

大学生になって初めての文化祭である「大樹祭」に広報担当スタッフとして参加しました。パンフレットの作成以外に、トークライブの司会進行としても大樹祭に参加する事が出来ました。

何もかもが初めてのことで戸惑うばかりでしたが、先生方、先輩方、学生課職員の方々のアドバイスをいただきながら、仕事を進めることができました。

今回の大樹祭は、日本医療科学大学の完成年度ということもあり、大樹祭実行委員にも特別な思いがありました。

実行委員として大樹祭に関われたことで、普段の授業では学ぶことのできない何かを得ることができたように思います。それは、学科学年関係なく、一つの目標に向かって物事をやり遂げた達成感です。

この経験を普段の大学生活に役立て、国家試験全員合格という目標に向かってみんなで頑張りたいです。また、今回の経験を来年度の大樹祭に生かして、一層盛大で中身の濃い大樹祭を作り上げていきたいと決意を新たにしているところです。

御協力・御支援をいただいた沢山の皆様、本当にありがとうございました。



第5回

1年生から4年生までが初めてそろった第5回大樹祭。今回の大樹祭は、1期生最後の文化祭となることを使って、なお一層華やかで幅広いものとなりました。

図書館棟の大教室では、サッカー解説者の山本昌は「かりゆし58」のライブ演奏が行われたほか、例年後援会によるフラワーアートの制作指導・スベアリブ

国家試験について

(理学療法専攻を例に)

理学療法士の国家試験は、今回第46回ということで、まだ歴史が浅く、これまでの平均合格率は概ね95%程度です。ここまで聞くと、「簡単な試験なんじゃないの」と思われがちですが、決して難易度が低いわけではありませんが、では何故合格率が高いかというと、一つには臨床実習の存在が大きいと思います。臨床実習は理学療法教育が始まって以来、非常に要求水準が高く容易に合格することができません。臨床実習合格レベルであれば国家試験も合格できるとも言えます。もう一つには、過去の受験生は合格率もあり、相当に目的意識がはっきりしていてモチベーションが高かったということが挙げられます。この点に関しては近年、残念ながら低下傾向にあり、合格率もここ数年は91%前後に低下してきています。



モチベーションを高めるには、努力によって得られるものの価値や魅力を示すことが効果的ですが、大学では、まさに我々教員の役目です。これからは魅力ある仕事であることを学生に理解させるべく、できる限りの努力を続けますので、保護者の皆様にも御理解とご協力をお願いいたします。ちなみに今年度の理学療法国家試験対策講義は約80コマ、模擬試験は17回以上で、いずれも多くは養成校の倍近くです。教員はさることながら、これまでの学生諸君の努力とそれを支えて下さったご家族に敬意を払います。本番で良い結果が出ることを祈るばかりです。

理学療法学専攻長 猪股高志



お悔やみ

本学教授で「臨床実習支援センター長」でもあった塚田勇先生が、平成二十二年十一月七日に急逝されました。突然の訃報にもかかわらず、通夜式には六百五十人を超える参列者が集まり、先生の生前の幅広い活躍と交流関係の深さを示すものとなりました。心からご冥福をお祈り致します。



城西放射線技術専門学校 創立五十周年記念式典開催

さる十一月二十三日、池袋のメトロポリタンホテルにおいて、本学の姉妹校である城西放射線技術専門学校創立五十周年を祝う記念式典が開催されました。

同時に、城西医療技術専門学校と城西放射線・医療技術専門学校同窓会結成五十周年を記念する会ともなりました。

当日は、北は北海道から南は沖縄まで、各校の卒業生、関係教職員、関連団体などから三百名近くの参加者があり、新たな五十年に向けて決意を新たにしていました。

五十年の重みを礎に

学校法人 城西医療学園

理事長 新藤 宜夫

平成二十二年は、日本医療科学大学が完成年度を迎え、また池袋の城西放射線技術専門学校創立から五十年となるなど節目の年でありました。

この五十年の世界や日本、私たちの生活、価値観などには大変大きな変化がありました。

教育に関係する私たちの使命は、これらの変化をどう読み取り、分析し、今後の教育現場に生かし、還元するかにあることと尽きるといってよいと思います。

そのよって立つところは、まさに「五十年の重み」以外にはありません。この重みを軽んじれば単なる歴史的傍

観者となり、この重みを基礎として将来を見据えるならば、新たな開拓者足り得ると確信しています。

完成年度を迎えたとはいえ、まだまだだよちよち歩きの大学ではありませんが、社会の要請を真正面から受け止め、大学の発展につなげてまいれる所存です。



国家試験に向けて 「猿ヶ京勉強合宿」を取行!

日本医療科学大学一期生の国家試験が目前に迫ってきました。

各学科、専攻ともに綿密なスケジュールの下、ラストスパートの態勢に入っています。

そうした中、診療放射線学科、リハビリテーション学科作業療法学専攻では、姉妹校「城西学園」の施設である「猿ヶ京セミナーハウス」(群馬県)をお借りして、勉強合宿を行いました。



今後の予定

- ★ 二月二十四日(木) 診療放射線技師 国家試験
- ★ 二月二十七日(日) 理学療法士・作業療法士 国家試験
- ★ 三月十日(木) 平成二十二年度 学位記授与式(卒業式)
- ★ 四月三日(日) 平成二十三年度 入学式

編集後記

特別に暑い夏と、特別に寒い冬を経て、日本医療科学大学の一期生が社会に巣立っていきます。新しい職場や環境で4年間の努力を生かしてほしいと思えばかりです。

しばらくすれば、第五期生が入学してきます。一期生が築いてくれた日本医療科学大学の新たな伝統をしっかりと受け継いで欲しいと願っております。(S)

TOPICS

第44回 日本作業療法学会 参加の報告

木之瀬、徳永両教授、
学会表彰を受ける

昨年6月11日から3日間、仙台国際センターを中心とした3会場にて、日本作業療法士協会主催による年に一回行われる学会が開かれました。44回目となる学会ですが、四千名以上の参加があり、どの会場も人に溢れておりました。本学作業療法学専攻教員も6名参加し、それぞれポスター発表、口述発表を行いました。

今学会では、総会の席上、長年に渡って日本作業療法士協会に貢献された方への表彰が行われ、本学から木之瀬教授、徳永教授が表彰されました。

本年は、埼玉での開催が予定されており、益々本学の教員の活躍が期待されています。